

# 三重県経済の動向

No.482

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

**【現在の景気】**：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

**【当面の見通し】**：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

## 個人消費：一部で弱い動きがみられるものの持ち直している

9月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比1.1%減で14か月連続の減少。9月のコンビニ販売額（速報）は2.0%増で、前年との比較が可能な昨年7月以降15か月連続の増加。家電大型専門店販売額は2.7%増で3か月連続の増加。ドラッグストア販売額は12.2%増で30か月連続の増加。10月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は1.1%増で12か月連続の増加。普通（△4.9%）が2か月連続の減少、小型（△7.5%）は3か月ぶりの減少となったが、軽（+14.0%）が7か月連続の増加。9月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は4.5%減で3か月ぶりに減少したが、3か月後方移動平均では2か月連続の増加。

## 住宅建築：一服

9月の住宅着工戸数は、前年比5.3%増で2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では0.6%の微増。持家（△9.2%）が2か月ぶりに減少したものの、貸家（+17.6%）が2か月ぶりの増加、分譲（+31.0%）が4か月ぶりの増加。床面積は2か月連続の減少。

## 設備投資：持ち直し

9月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比5.8%減で3か月ぶりに減少したが、3か月後方移動平均では3か月連続の増加。10月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比10.7%減と2か月連続で減少したが、3か月後方移動平均では6か月連続の増加。普通貨物（△8.3%）と小型貨物（△11.1%）が2か月連続で減少、軽貨物（△11.1%）は7か月ぶりの減少。

## 公共工事：横ばい

10月の公共工事請負件数は前年比10.5%増で4か月ぶりの増加。請負額は、22.3%増で3か月ぶりに増加したものの、年度累計では3.7%減と2か月連続の減少。増加の主な要因は、四日市市において比較的規模の大きい上下水道関連工事等が増加したこと、また鳥羽市において「消防庁舎用地」関連の大型工事があった影響等による。

## 輸出入：足踏み

9月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比5.8%増で4か月ぶりに増加したが、3か月後方移動平均では4か月連続の減少。主要港である四日市港は6.1%増で4か月ぶりの増加。四日市港では、品目別で自動車、電気計測機器などが減少したものの、石油製品、プラスチック、染料・なめし剤及び着色剤などが増加。県内2港の通関輸入額は、15.5%増と3か月連続の増加。

## 生産活動：回復

8月の鉱工業生産指数（季調済）は140.1と前月比（+4.2%）で2か月連続の上昇、原指数は130.9と前年比（+5.4%）では5か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、金属製品、生産用機械、食料品などが低下したが、電子部品・デバイス、輸送機械、非鉄金属などが上昇。在庫指数（季調済）は104.4で、前月比4.1%上昇と3か月ぶりに上昇。

## 雇用情勢：高水準続く

9月の有効求人倍率（季調済）は1.64倍で、前月比0.02ポイント上昇、53か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.45倍で、前月比0.29ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業のほか、食料品、輸送用機械器具、電子部品・デバイス・電子回路、はん用機械器具、電気機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉などが前年比増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.04倍（前年差+0.16ポイント）となり、3か月連続で1倍を超え、前年を上回って推移。

## （トピックス）

- ・ 日立金属(株)（東京都）は配管機器事業の基盤強化に向け、桑名工場（桑名市）の生産ライン増強・合理化投資を実施する。省エネルギー対応ニーズの高まりに伴う、社会インフラに対する要求の高度化、電力・ガス自由化に伴う顧客の総合エネルギー会社への転換などが背景にある。投資額は約30億円、稼働時期は2018年度の予定。
- ・ 10月1日に、津市産業・スポーツセンター内に大型屋内スポーツ施設「サオリーナ」（津市）がオープン。21日には、三重県営総合競技場「三重交通Gスポーツの杜伊勢」（伊勢市）がリニューアルオープン。「サオリーナ」は、約4000人を収容できるアリーナや屋内プールなどを完備。「三重交通Gスポーツの杜伊勢」では、日本陸連第1種公認陸上競技場として日本記録や世界記録の公式認定が可能となる。両施設は来年開催の全国高校総体や2021年の“三重とわか国体”等の会場となる。